

# 大島小学校第5,6学年・大島中学校第1学年 図画工作科・美術科 学習指導案

指導者 峰松由布子  
 指導補助 木村優里  
 場 所 特別活動室

- 1 教材名 「暮らしの中で生まれた “日本の美”」 (鑑賞・日本の美)
- 2 対 象 大島小学校1年生5名、2年生5名、3年生5名、4年生8名、全23名
- 3 本 時 平成19年10月12日(金) 第5校時
- 4 主 眼 掛け軸は床の間に掛けられ、季節に合わせて掛け替えをするなど、自然との共存を基盤としてきた日本独自の文化を象徴するものである。しかし、住空間の変化に伴い生活の中に息づく美としての意識が薄れつつある。現在の掛け軸の多くは、高価なものとして特定の場所や美術館等の施設に大切に保存されているというイメージが強く、実際に手にとって扱う経験は少ないものである。また、文化・人間理解としての教育の在り方が問われる今、我が国の美術や表現の特質などについての関心や理解を一層深めることが大切であると考え。以上の点から、日本の伝統的な表現形式である掛け軸を題材に設定した。全員が掛け軸に触れる活動を通し、格式ばった美術品という認識だけでなく、生活の一部としての美のあり方を理解することができるようにする。また、掛け軸以外の暮らしの中で生まれた“日本の美”を知ることで、自分の身のまわりの美を味わう力にまで発展させたいと考える。

## 5 本時の展開

段階	学習活動・内容	指導上の留意点・発問(◆)	形態	配時
導入	1 本時の学習内容を把握する。 ・事前に展示してある掛け軸をみて、本時の活動を把握する。	○本時の方向性をつかむことができるように、事前に掛けておいた2幅の掛け軸に注目させ、配布資料で学習内容を確認する。 ◆掛け軸って知っていますか？ ◆見たことありますか？ ◆巻いたり掛けたりしたことありますか？	一斉	10
	2 掛け軸の掛け方、しまい方を鑑賞する。 ・兎(風帯付き)	○次の展開での理解を促すために、掛け軸の掛け方を示す。(2人1組の方法で) ○桐箱に入れられた掛け軸を用いることで貴重な作品であることを認識させる。 ○丁寧に扱う大切さを理解させるために、ハンカチで手を拭く動作をみせる。 ○掛け軸の「本紙を引き立てる・一体感を出す」といった表装の意図について紹介する。 →これは、兎の絵です。後ろには松が描かれています。きっと兎年に干支を描いたものでしょう。まわりの布の模様には、寿という字があり、とてもおめでたい掛け軸です。このように掛け軸は、作品を引き立てるようにまわりを布や紙で飾った形をしています。 ○次の展開での理解を促すために、掛け軸しまい方を示す。(2人1組の方法で)		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開</p>	<p>3 掛け軸を扱う。</p> <p>① 水墨画の掛け軸 ・掛ける(中1:2人)…A ・しまう(中1:1人+教員)…B</p> <p>② 先師孔子行教像 ・掛ける(中1:2人)…C ・しまう(小6:2人)…D</p> <p>③ すいか ・掛ける(小6:2人)…E ・しまう(小6:2人)…F</p> <p>④ 江戸生艶気樺焼・艶次郎 ・掛ける(小6:2人)…G ・しまう(小5:2人)…H</p> <p>⑤ 親鸞聖人絵傳 ・掛ける(小5:2人)…I</p>	<p>○1組目が「ほどく・掛ける」動作を行い、2組目が「降ろす・巻く」という動作を行う。</p> <p>○巻き方が複雑なので、横で指導者が別の掛け軸を用いて一緒に巻きながら教える。巻いている様子が、その他の児童生徒にも見えるように注意を払う。</p> <p>○教員1名を入れた計18名で9組の活動を繰り返す。このとき本紙の内容に触れ季節感や風物が描かれていることに気付かせる。作品に合わせて布の色や紋様、デザインが違うことに気づくことができるよう、</p> <p>いろいろな種類の掛け軸を用意する。</p> <p>→では、今から2人1組で掛け軸を掛けたり、しまったりしてみましょう。どんな作品がでてくるでしょうね。人が掛けたり、しまったりするときもしっかり観察して覚えるようにしましょう。</p> <p>◆①この作品のように墨と水だけで描いてあるものを何と いうか知っていますか？</p> <p>◆②この黒い色もさっきと同じ墨だけど、これは拓本と いって、石に絵や文字が彫られているものに墨を塗って紙 に版画のように写したものです。</p> <p>◆③すいかといえば、季節は？夏に掛けていたんでしょ うね。夏らしくまわりの布も水色で涼しげです。この作品 のように、その季節にあった絵や書を床の間に飾って、 生活を楽しむ工夫をしていました。</p> <p>◆④面白い作品ですね。これは、手ぬぐいを掛け軸にした ものです。手ぬぐいも、まわりを布で飾って掛け軸の形 にしたら、立派な作品に変身しますね。</p> <p>◆⑤これは、偉いお坊さんの一生が描かれたものです。 →いくつか掛け軸を見てきましたが、掛け軸が巻けるよ うになっている良いところは、保存がし易いことです。火 事が起きてしまっても、小さく軽いので持ち運び簡単に できて、大切な作品を守ることができます。そうやって 沢山の貴重な作品が守られてきました。 →これと同じように、物語がかかれています、巻ける形にな ったものに巻物があります。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">一 斉 ・ 2 人 1 組</p>	<p style="text-align: center;">30</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p>4 巻物・屏風の鑑賞をする。</p> <p>5 まとめの話を聞く。</p>	<p>○巻物・屏風を見せることで、“日本の美”への関心をより 深めることができるようにする。</p> <p>◆今回見てきた日本の美は、今私たちの暮らしの中からな くなってきています。</p> <p>◆これをきっかけに、昔の人々の知恵と思いの詰まった日 本の美に目を向ける大切さを感じてもらいたいと思いま す。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">一 斉</p>	<p style="text-align: center;">5</p>

## 6 準備物

毛氈・配布資料・桐箱・導入用巻物、掛け軸・ハンカチ・矢筈・体感用掛け軸・三十六歌仙・屏風

置き床 [22×89×32cm]

簡易床の間パネル [227×70cm]

掛け軸の展示用パネル [227×(70+90+90+70) cm]

イーゼル [154×58cm] ——10脚

暮らしの中で生まれた“日本の美”(プリント, 展示用のりパネ)

掛け軸の掛け方, しまい方(プリント2部)・巻物の見方(展示用のりパネ)

## 7 作品リスト

掛け軸 [タイトル/作者/本紙サイズ/軸サイズ]

兔/陽/127×30cm/215×43cm (三段風帯付)

① 不明/勝観/135×30cm/196×41cm

② 先師孔子行教像/不明/111×55cm/193×67cm

③ すいか/不明/36×33cm/130×48cm (三段風帯付, 剥落, 水干着色, 絹)

④ 江戸生艶気樺焼・艶次郎/不明/86×32cm/170×45cm

⑤ 親鸞聖人絵傳/不明/136×53cm/176×62cm (紙仏工表装)

展示用掛け軸 20幅

巻物 ・「伴大納言絵巻」

屏風 171×(64+64+64+64+64+64) cm ——六曲一双 (折り曲げたとき: 171×64×30cm)

三十六歌仙 167×45cm ——6点